

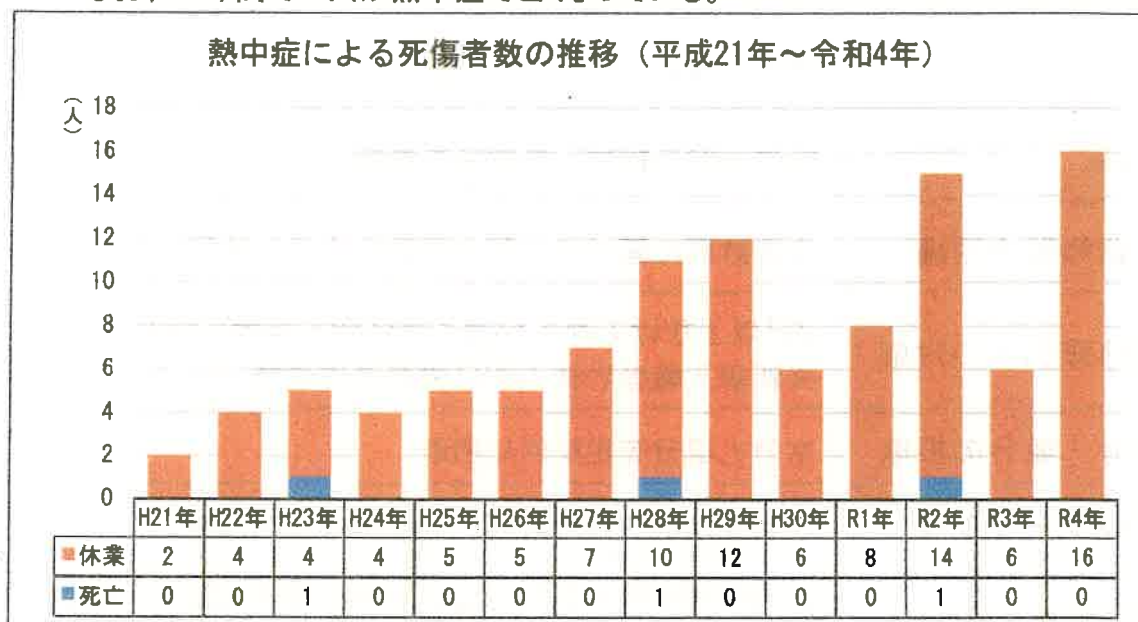
宮崎県内における職場での熱中症による死傷災害の発生状況 (休業4日以上労働災害)

1 熱中症による死傷者数の推移(平成21年～令和4年速報値)

職場での熱中症による死傷者数は、平成21年以降の14年間で106人となっており、長期的には増加傾向にある。

令和4年の死傷者数(速報値)は前年を大幅に上回る16人となる見込みである。

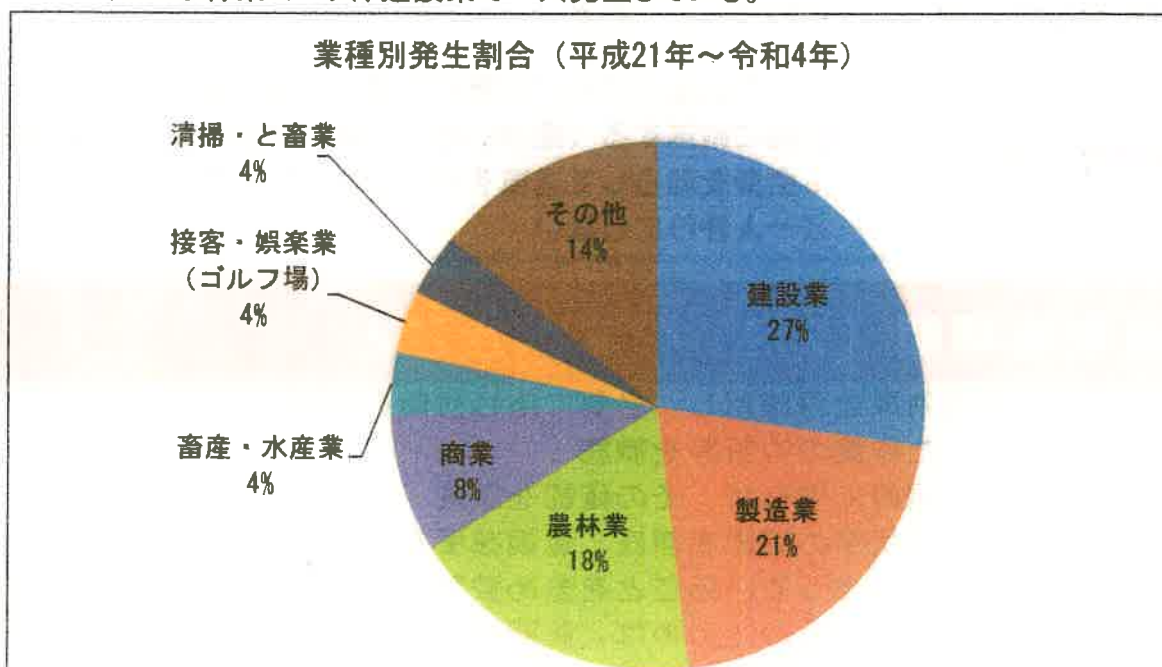
なお、14年間で3人が熱中症で亡くなっている。



2 業種別発生状況(平成21年～令和4年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和4年速報値)の業種別の熱中症の発生状況を見ると、建設業が29人(27%)で最も多く、次いで製造業が22人(21%)、農林業が19人(18%)と続いており、この3業種で全体の6割以上を占めている。

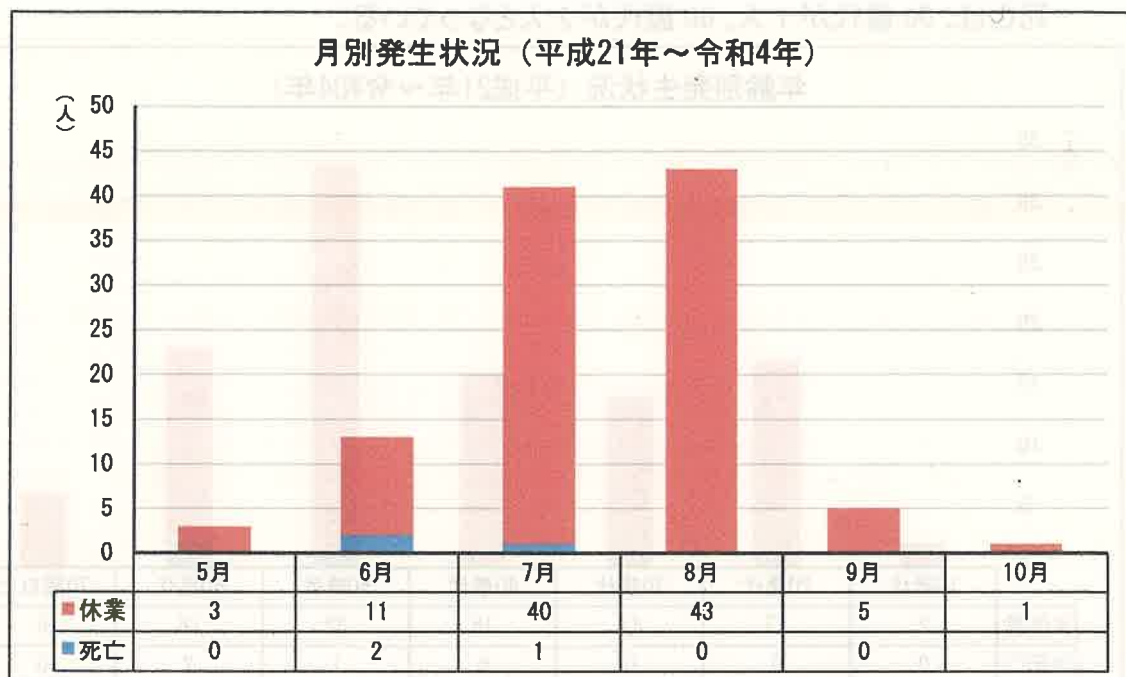
死亡は林業で2人、建設業で1人発生している。



3 月別発生状況(平成21年～令和4年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和4年速報値)の月別発生状況をみると、毎年、梅雨明け・盛夏の時期となる7・8月に全体の約8割(83人)が発生している。

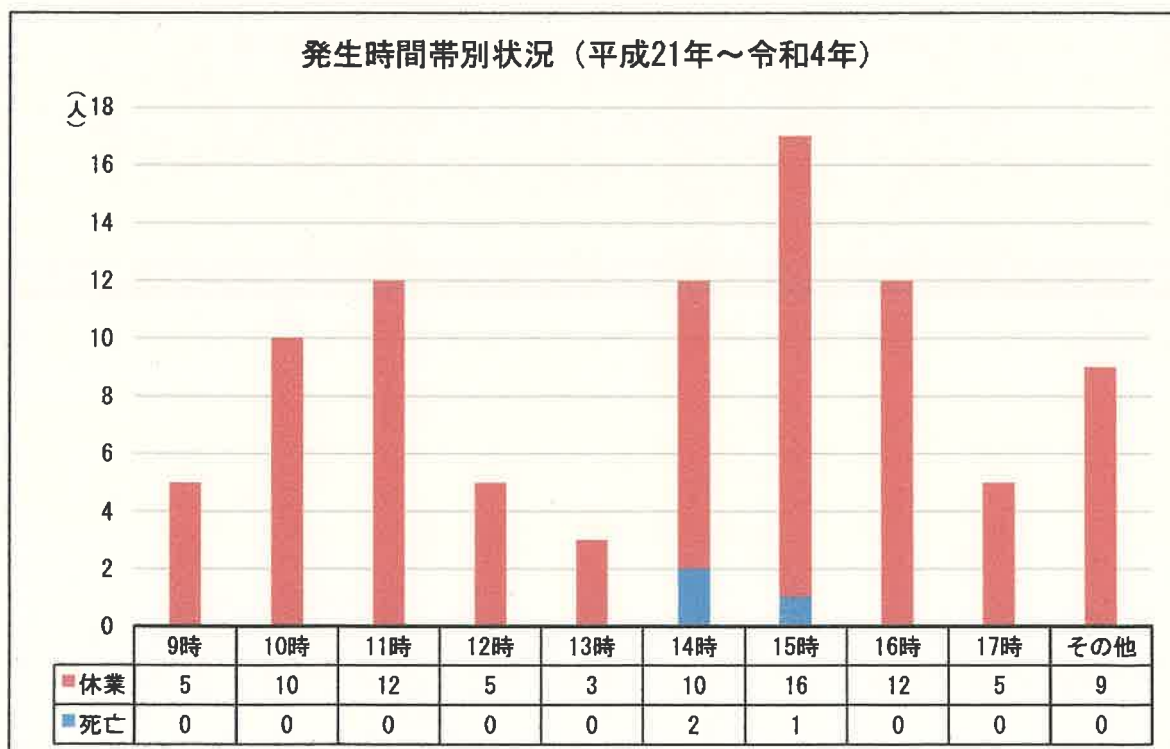
死亡は、6月に2人、7月に1人発生している。



4 時間帯別発生状況 (平成21年～令和4年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和4年速報値)の時間帯別発生状況をみると、気温が上昇する10・11時台、気温が最も高くなる14時から16時台が多くなっている。

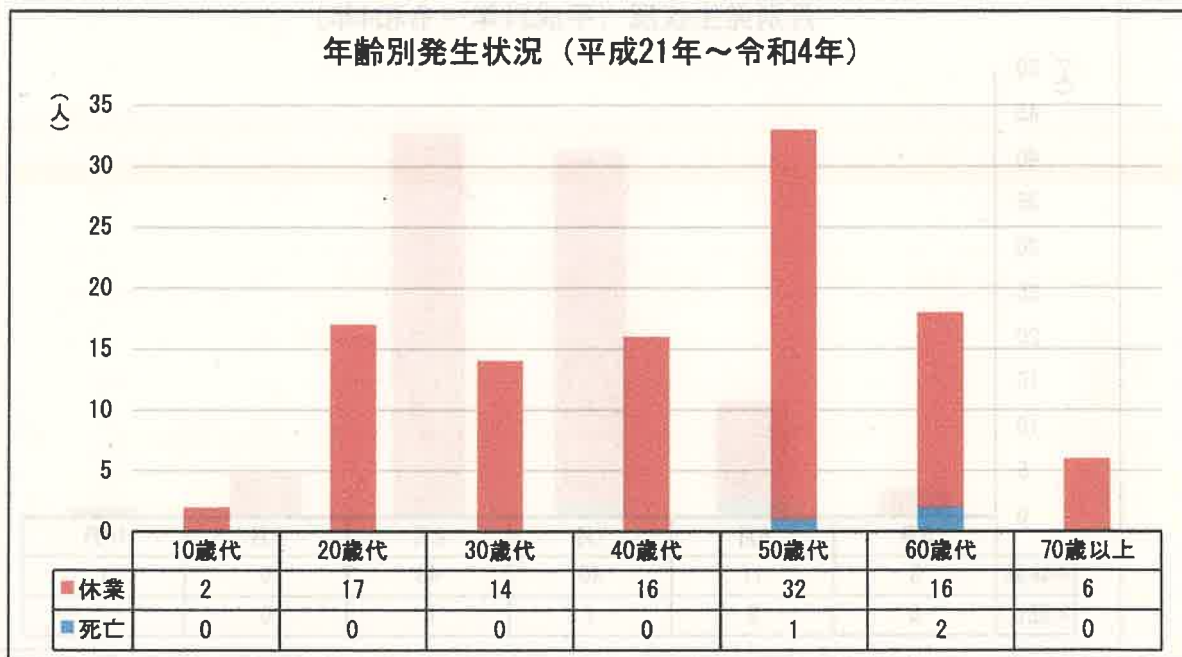
死亡は、14・15時台に発生している。



5 年齢別発生状況(平成21年～令和4年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和4年速報値)の年齢別発生状況をみると、50歳代が33人で全体の31%を占めており、次いで60歳代、20歳代、40歳代、30歳代となっている。

死亡は、50歳代が1人、60歳代が2人となっている。



※ 統計は労働者死傷病報告(休業4日以上)の数値である。

